

まちの話題

Machi no Wadai



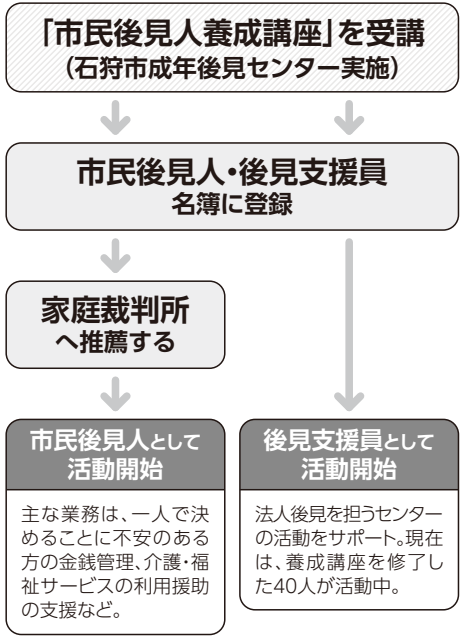
8月から全5回にわたる「市民後見人養成講座」がスタートします!

地域で認知症や障がいのある方の生活を支えます

地域福祉

市民後見人養成講座

市民後見人と後見支援員になるまでの流れ



「市民後見人」になるために、特別な資格は必要ありません。この活動において何より求められるのは、地域や社会に貢献したいという「ボランティア精神」です。



「市民後見人養成講座」の修了生が集まり、今後の活動について話し合ったり、他市町村の取り組みを学ぶ勉強会を開催したりしています。

利用者の方は認知症の影響でいつも「初めまして」となりますが、それでもその都度笑顔で「会えうれしい!」と迎えてくださり、心が温かくなります

初めは「後見支援員」として活動していましたが、昨年9月から「市民後見人」になりました! 現在は3人の方を担当し、月1回90分程度のサポートをしています

石狩後見サポーターズに参加も

市民後見人と後見支援員の有志が活動する団体。メンバー間の仲間づくりを進めながら、成年後見制度についての広報・啓発活動を積極的に展開しています。



▲YouTube



市民後見人
なんば 南葉ゆみ子さん



しんや あやか
← 新屋彩さん

定期的な連絡会やフォローアップ研修もあり、相談できる仲間がいることが心強いそうです。お一人は「相手に興味を持ち、親身に生活のお手伝いをしたい気持ちがあれば、どんなでもなれます」「一緒に地域を見守る仲間が増えていくといいですね」と話してくれました。皆さんの周りにも支えの必要な方がきっといます。次の講座の申込期限は15日(水)! ぜひ受講してみませんか?



▲申込フォーム



市民記者
井出美沙さん

プロフィール ■ 小学3年生から石狩市に暮らし、現在は市内の旅行会社アミーケ・インターナショナル(株)に勤務。市内でのバスツアーや体験プログラムを行う仕事を通して出会った人々や場所の魅力を伝えたいという思いから市民記者として活動しています。

こんにちは、市民記者の井出です。今回は「市民後見人養成講座」について、同講座を修了し、「市民後見人」として活躍する南葉ゆみ子さんと新屋彩さんにお話を伺いました。認知症や障がいなどにより判断能力が低下した方を支える「市民後見人」。講座を受講したきっかけを南葉さんは「何も知らず、ただ興味があった」とほほえみ、新屋さんは「祖父が認知症になったことや祖母の介護について考える中で、家族だけでなく地域のためにできることもあるのでは」と振り返ります。実際にご本人に代わり金銭管理や行政上の手続きなどを行う中で、やりがいは「実務的なことだけではなく、相手を知り、気持ちに寄り添う時に感じる」と南葉さん。新屋さんも「笑顔に触れ、少しでも安心のお手伝いができればうれしい」と言います。

広告